

スマートドライブ、保険業界向けテレマティクス基盤にインテル製テレマティクス向けサービス・プラットフォームを採用

2015年5月13日(東京)、株式会社スマートドライブ(本社:東京都渋谷区、代表取締役:北川 烈、以下「SmartDrive」)は、先日業務提携(アライアンス)を発表したアクサ損害保険株式会社(本社:東京都台東区、代表取締役社長兼CEO:藤井 靖之、以下「アクサダイレクト」)のテレマティクス※2サービス基盤にインテルのテレマティクス向けサービス・プラットフォームを採用すると発表しました。また、今後登場予定の様々なテレマティクスサービス向けの車載機器を含むサービスプラットフォームにインテルのプロセッサおよびテクノロジーを採用する計画を発表しました。

SmartDriveは、車社会をビッグデータで変革する目的で設立されたスタートアップ・カンパニーで、総務省がベンチャー企業による新事業の創出を支援する2014年度I-Challenge!(ICTイノベーション創出チャレンジプログラム)の第1号案件として採択され、「自動車のOBD-II※1とモバイルデバイスの連携を用いたテレマティクス※2データ活用技術」事業を推進することで、渋滞緩和や事故予防といった大きな社会課題の解決にチャレンジしています。

「テレマティクスデータの応用範囲は幅広く、今後新たな利用アイデアが続々と登場することが予想され、その一部は既に取組みの準備が始まっています。当社の究極の目的はこのような時代の到来にふさわしい、データを適切に収集、分析し、利用者および受益者に還元する、いわばテレマティクスデータプラットフォームの提供です。インテルのプロセッサ、車載向けプラットフォーム、データ処理プラットフォームのロードマップは強力で、弊社の考える製品・サービスを実現するために最適です。」

SmartDrive CEO 北川 烈

エンドースメント

今回の発表に当たり、アクサダイレクトより以下のエンドースメントを頂戴しております。

「アクサダイレクトは、アメリカのシリコンバレーにビッグデータの解析などを行うイノベーションラボを保険業界初で設立するなど、ビッグデータの活用をグローバルで積極展開しているAXAグループのメンバーカンパニーで、個人のお客さまを対象とした主力の『アクサダイレクト総合自動車保険』は好調な売上を続け、自動車保険の保有契約件数は102万件を超えています。今後は、アクサダイレクトの自動車保険事業とスマートドライブ様のテレマティクス※2サービス事業の高付加価値化の可能性に対する検討など、お客さまの安全運転の促進や事故予防につながるイノベティブな新商品・新サービスの提供により、企業価値を更に高めるよう、スピード感を持ってまい進していきます。」

アクサダイレクト セールス&マーケティング本部 CMO兼本部長 二見 直樹 様

なお、5月13日から3日間、東京ビッグサイトで開催されるIoT/M2M展にて、上記アクサダイレクトとの取り組みの概要や、SmartDriveの取得するデータをインテルのテレマティクスプラットフォーム上で活用したデモを、インテルと共同で出展します。<http://www.m2m-expo.jp/haru/>

※1 OBD-II (On Board Diagnostics second generation)とは、自動車に搭載されるコンピュータ(ECU)が行う自己故障診断装置をいいます。

※2 テレマティクス(Telematics)とは、テレコミュニケーション(Telecommunication=通信)とインフォマティクス(Informatics=情報工学)から作られた造語で、移動体に携帯電話などの移動体通信システムを利用してサービスを提供することの総称をいい、一般的には、自動車、輸送車両などへのサービス提供に対して使用されているものです。

SmartDrive について

株式会社スマートドライブは2013年10月より営業を開始し、主に自動車のOBD-IIから取得できるテレマティクスデータの解析やそれに付随するサービス構築を主軸にビジネスを展開しています。2014年4月には経済産業省「新事業創出のための目利き・支援人材育成等事業」に採択、そして2014年9月には総務省の「ICTイノベーション創出チャレンジプログラム」に第1号案件として採択されています。詳細は

www.smartdrive.co.jp をご参照ください。



SMARTER FLEET MANAGEMENT

株式会社スマートドライブはテレマティクスデータの活用により、今後大きな変革が起きる自動車産業で必要不可欠なインフラになることを目指しております。その一環としてインテル株式会社とのコラボレーションにより、経済的かつ効率的なりアルタイム車両管理システムを提供し、移動経路・燃費・配車などの最適化から車両やドライバーの安全管理に至るまで、車両管理全体のストリームライン化をお手伝いし、また蓄積されたデータを解析することで、現状の課題発見・解決においても付加価値を提供します。

